

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3891400016
法人名	原井川建設有限会社
事業所名	グループホームあいの里
所在地	西予市野村町阿下6号588番地
自己評価作成日	平成21年12月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 22 年 1 月 20 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは四方が見渡せる小高い丘にあり、前方に桜の名所「愛宕山」を望み、眼下には野村町のシンボル「乙亥会館」が見えます。畑の中を通る道路はあいの里自慢の散歩コースで、四季の移ろいを身近に感じる場所でもあります。広い自家菜園には運営者自らが季節の野菜を利用者と共に育て、安心安全な野菜を日々の食卓に載せています。昨年末に完成した「交流館」では地域の方達が演芸ボランティアとして再々来て頂きます。そうした時には近所にも一声かけて一緒に楽しみ利用者との交流が自然にでき嬉しく思っています。中学生が「人権の花運動」で自分たちが育てた花のプレゼントを受けたり、障害児のボランティアの受け入れを行う等、地域の中でホームとしてできることを自然体で当たり前に行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営者と管理者及び職員は、地域密着型サービスの意義や役割を認識したうえで、地域との交流と連携を積極的に図り、利用者が地域で継続して生活できるよう支援している。ホーム内に舞台を備えた交流館を新たに増設し、地域の演芸ボランティアやホーム行事を催し、利用者の楽しみを支援している。また、交流館を会合・研修会場として住民に提供している。自家菜園での収穫物を日々の食卓に取り入れて利用者の食への楽しみと健康維持に努め、また近隣住民におすそ分けもしている。ホーム周辺を日常の散歩コースとして全員で出かけたり、家族や運営推進会議メンバーの協力を得ながら花見や地域行事に全員で参加するなど、外出の機会を確保している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I.理念に基づく運営
- II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームあいの里

(ユニット名) 1F (さくら)

記入者(管理者)

氏名 真田 ハル子

評価完了日 平成21年12月15日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 理念を常に意識しながら日々のケアに努めている。今年度は更に具体的にサブテーマを掲げホーム内の目に付きやすい所にも貼付しお互いに確認共有しながら実践している。</p> <p>(外部評価) 開設時に管理者と職員が話し合い、地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を作成している。さらに基本理念をふまえた具体的サブテーマを全職員で考え、理念の実践につなげている。新年度も新たなサブテーマを作成する予定である。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) ホームは開設当時から自治会に加入し、共同作業、常会には運営者が参加し、地域の行事には利用者も参加している。祭りには牛鬼、御輿の訪問、亥の子には地域の子供達が亥の子つきにきてくれる。外部からの演芸ボランティア時には近所にも声をかけて一緒に楽しんで頂いている。地域の障害児のボランティアの受け入れも行っている。</p> <p>(外部評価) 自治会に入会しており、運営者が自治会の会合に参加し、回覧板も回ってくる。祭りや亥の子など地域の行事や清掃作業には利用者と職員が参加している。中学生の体験学習や障害児のボランティアを受け入れたり、舞踊ボランティアが来所する際には地域住民を招いて利用者と一緒に楽しんでいる。自家菜園の収穫物を近隣におすそ分けするなど、地域との交流を図っている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 交流館ができた事で、町内外からの演芸ボランティアの慰問も再々ある。練習の場としても開放している。地域のボランティアグループが3ヶ月ごとに来て頂き、利用者と交流をとおして認知症の理解を深めて頂いている。地域の人達と認知症の勉強会ができればと考えている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<p>(自己評価) 運営推進会議を定期的開催し、利用者の状況、サービスの状況、当面の課題等について報告しそれぞれの方から意見を聴きサービスの向上に役立てている。委員さんは真剣に討議して頂き行事等にも積極的に参加協力して頂いている。来年度には、一部委員さんの交代を検討し更に地域に密着した開かれたホームを目指したい。</p> <p>(外部評価) 市担当者、地域代表者、利用者及び家族等をメンバーとして、2か月毎に開催している。ホームの行事や現状の報告、外部評価の公表等を議題とし、活発に出された意見をサービスの向上に活かしている。議事録が第三者にはわかりにくく、職員の参加もやや少ない。</p>	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	<p>(自己評価) 市の担当者は、どんな小さなことでも親切に教えて頂くので不明なことは即相談をしている。相談は電話、メール、市役所を訪問するなどしているが、親切でわかるまで説明して頂き相談し易い。事務的なことは勿論、ホームの大きな行事等には参加して頂くこともある。その他介護保険の更新、認定調査の訪問等でも協力関係を築いている。</p> <p>(外部評価) 市担当者にはホームでの課題等について相談してアドバイスを受けており、介護保険の認定更新の機会にも利用者の様子や現状を報告している。また、ホームの行事にも参加してもらって交流を持つなど、協力関係を築いている。</p>	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<p>(自己評価) 玄関の施錠は夜8時から翌朝6時までである。居室には鍵は付いていない。身体拘束について職員の意識の統一はできている。例えば「夜間のオムツはずし」等の対応として、考えられる簡易な方法から取り組んで身体拘束をしなくても済むように取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 職員は、拘束にあたる具体的な行為等についてミーティングや研修を通して理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関の施錠は夜間のみとし、日中は利用者の行動を抑制しないよう見守りで安全を確保している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 身体的な虐待は絶対にありえないが、言葉による虐待にも日頃から十分注意をしている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 管理者は権利擁護の研修会に参加しており、職員会の時研修会で学んだことを報告しているが、十分には理解できていない。今後勉強会で学習していく必要がある。2Fには在宅時から日常生活自立支援制度を利用されている方があり、八幡浜市社協の社会福祉士、支援員さんと連携ができています。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居契約時に十分時間をとって説明をしている。また、何でも気軽に相談してくださいといつも言っており、初期のうちは特に面会時など声をかけるようにしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者にも家族にも気軽に何でも話して下さいとお願いしている。ご意見箱も設置しているが利用はない。市の介護相談員さんが3ヶ月ごとに訪問して利用者から直接意見を聴いてもらい、ホームの方へ文書で送られてくる。それを職員会で討議して運営に活かしている。 (外部評価) 玄関に意見箱を設置し、重要事項説明書には苦情申立先を明記して、家族の訪問時にも聞き取るようにしている。また、介護計画の見直しの際には家族記入欄を設け、計画と併せて要望や意見を伝えられるよう工夫するなど、出された意見等を運営に反映させている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月1回ユニットごとに職員会を全員参加で行っており、代表者もその都度参加される。職員は気兼ねなく意見を述べることができ、職員の意見には十分配慮し適切な対応を行っている。 (外部評価) 毎月開催するユニット毎のミーティングには運営者も必ず出席し、職員から現状を聞き取り、意見や要望、提案等を運営に反映させている。運営者の柔軟な姿勢もあり、職員は思いや意見等を積極的に伝え、話し合っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 勤務状況等は逐一報告を行い把握して頂いている。給与面についてもいち早く「介護職員処遇改善交付金」の申請をして職員の処遇改善に取り組んでもらっている。その他研修会の参加費の負担、常勤、非常勤の別なく勤務扱いとするなどして職員のレベルアップにも配慮されている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 常勤、非常勤を問わず均等に学習する機会を設けて、外部研修にはできるだけ多く参加している。参加研修し易い環境整備もできている。法人内の研修会も行い計画的に学習できる環境を整え職員のスキルアップを図っている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) グループホームの研修会を通じた交流が主であるが、相互研修には毎年参加して、お互いのホームを訪問し意見交換気付き等の確認を行い、サービスの向上に努めている。管理者は市内のグループホーム出かける機会があるが、職員はそうした機会がない。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前の事前調査で関係者から情報を収集し、訪問時に本人家族と話しあって早期に信頼関係を築くことに努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居申し込みから、サービス開始に至る段階で家族の困っていること、不安に思っていること、要望等をお聞きしてケアプランに反映し、家族が安心して預けることができるように初期のうちに信頼関係を築くことに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) お試し利用、比較的短期間(3ヶ月程度)の利用なども可能であることを伝えているが、そうした利用は未だない。H22年4月からはショートも対応できるようになるので、柔軟な支援ができるようになる。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 人生の先輩として尊敬し、昔の話や地域にまつわる話など教えて頂くことも多くあり、過されてきた年月の重みや背景を知ることができる。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 担当者が1/月回家族にお手紙を書き、利用者さんの様子を伝えている。遠くにいて滅多に面会に来られない家族には利用者さんと一緒に手紙を書くスタッフもいて家族から喜んで頂いている。面会も多くその都度、ゆっくりと話をしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 本人が入居前からかかっている医療機関や主治医との関係を継続している。地域の行事等にもできる限り参加して馴染みの人との出会いを大切にしている。地域のボランティアさんの訪問も多くあり利用者さんの楽しみや励みにもなっている。 (外部評価) ホームのある地域出身の利用者が多く、馴染みの方の訪問はよくある。近隣の理髪店を利用した際には帰りに送ってくれる等、馴染みの関係が築かれている。散歩コースの途中で墓参りをしたり、遠方の墓参りにも職員が同行するなど、馴染みの人や場所との関係継続を支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) マイペースを尊重しながらも、家族のような雰囲気でお互いが気遣い助け合っている。元気な人が弱い立場の人を自然といたわるような働きかけをおこなっている。利用者同士が「ありがとう」の言葉も自然と出ている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 入院が長期となって退居されてもお見舞いに行ったり、葬儀にも参列したりと馴染みの関係を断ち切らないようにしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の暮らしの中でその人の思いや希望を知り、できる限り本人の要望に添えるよう日々努めている。担当者を置くことにより、「身近な相談者」としての役割も果たしている。 (外部評価) 日々のケアを通して、担当職員を中心に表情や言動から一人ひとりの思いや意向を汲み取ったり、家族に相談して本人本位に検討している。気づきや情報は、申し送りノートにより全職員が共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居前の訪問、関係者（ケアマネ、サービス事業者）家族からの情報、本人からの聞き取りや面会時の親戚、友人等からの話などから状況の把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 個人記録や申し送りなどで一人一人の状態を把握し、個々のできる力を活かして生活できるように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) センター方式のアセスメントを行い、本人、家族の意向を踏まえた介護計画を作成、全職員が情報を共有しながら、より良い支援ができるように努めている。	
			(外部評価) センター方式を取り入れたアセスメントを基に、課題とケアのあり方について本人・家族、職員で話し合っ て計画を立て、モニタリングを行い、変化時と定期の3か月毎に見直している。家族への報告時には意見欄を設けて要望や意見を書いてもらうようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別記録により、日々の暮らし方の様子、体調の変化等を把握し実践につなげている。3ヶ月毎の見直しにとどまらず、現状に即した介護計画の見直しをおこなっている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 利用者家族の希望に応じた外出支援、かかりつけ医の受診、他市町の専門医の受診介助、理美容室利用の支援、墓参りなどその時のニーズに沿った柔軟な支援を行っている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域の方、各種ボランティアさん、中学、高校、地域の子供会、民生委員、介護相談員等多方面から協力支援を受けている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価)</p> <p>各人が入居前から利用されているかかりつけ医を利用することにより、身体状況の把握が継続してきて、家族本人の安心安全につなげている。通院介助は管理者が専門に行っており、主治医との連携が十分に図れている。その日の状況を個人記録と申し送りによりスタッフに周知させている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>利用者及び家族の希望を大切に、入居前からのかかりつけ医の受診を管理者同行で支援し、協力医療機関に結果を報告している。また、皮膚科、眼科等の専門医への受診については協力医療機関と連携しながら、適切な医療を受けられるよう支援している。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	<p>(自己評価)</p> <p>ホームの看護師は、看護面での気づきや助言を介護職に伝え、お互いが情報を共有しながら利用者の健康管理に努めている。定期的に訪問する訪問看護師、かかりつけ病院の看護師にも気軽に相談し利用者の支援に協働できている。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価)</p> <p>利用者が入院した場合には、毎日誰かは病院を訪問し状況把握に努めている。また地域対策室に事前に申し込んでおれば入院者の現状や今後の見通しなどを教えて頂くこともできるようになり、相談し易くなった。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>ホームとしての看取りの指針を作成し、家族会で説明を行ったが、家族本人と具体的な話までは進んでいない状況である。地域的なこともあり、今までは可能な限りホームで過ごし、最後は医療機関でというケースがほとんどであった。今後はホームでの看取りも踏まえて職員教育を行って行きたい。</p> <p>(外部評価)</p> <p>重度化や終末期を迎えた場合、利用者及び家族は医療機関への移行を希望する傾向にあり、現在まで看取りの経験はないが、今後に備えて看取り指針を作成している。</p>	<p>重度化した場合の利用者及び家族の思いとホームの対応が一致するよう、入居時の早い段階から話し合いを持つとともに状況の変化に応じて話し合いを継続して、方針の統一を図っていくことが望まれる。また、支援体制の充実に向けて職員の看取りへの学びを深めることも期待したい。</p>

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 応急手当の訓練は受けているが、その場であわてずに適切な対応が誰でもできるかは疑問である。定期的に学習会などでも取り組んで行くことが必要である。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年1回は消防署立会いの通報訓練、消火訓練、避難訓練を全員参加で行っている。その他ホーム単独でも年4～5回は夜間を想定した避難訓練を実施している。来年度は実際に夜間の訓練をして、緊急連絡網がどのように機動するかを試してみたい。近所の協力もお願いしたい。 (外部評価) 緊急連絡網・避難マニュアルを作成している。消防署の協力を得ての訓練を年2回実施し、訓練記録を作成している。また、年に数回は利用者と共に夜間を想定した自主訓練を行っている。今後は近隣住民の協力を得ての訓練実施を計画しているが、現在のところ実現はしていない。	運営推進会議等を通じて地域住民への協力を求めるとともに、地域の自主防災組織についても確認することが望まれる。ホーム周辺は広い畑のため一時避難場所にはなるが、公的避難場所も確認し、さらに備蓄品を確保するなど、災害に対し更に備えを充実するよう期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 個人の尊厳を傷つけない対応、言葉遣いにも気をつけている。入浴や排泄介助においても尊厳と安全性に配慮している。居室の入り口には暖簾をつけ、ネームプレートをかけているがその人に応じて目印などもつけている。 (外部評価) 一人ひとりを人生の先輩として尊敬し、誇りやプライバシーを損ねないよう、声かけや対応には十分気を付けている。馴れ合いから失礼になることがないように、職員同士で注意し合っている。毎月1回の勉強会で、人格の尊重とプライバシーの確保について理解を深め、徹底するようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 本人ができるだけ自己決定や思いを伝えることができるように、待つゆとりを持って働きかけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 個人のペースを大切にして、強制などはせずまずは希望を聴き本人の意向を優先している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) その日の洋服選びから始まり、理美容についても適宜希望を聞きながら支援している。身の回り品の購入についてもなるべく本人を伴って買い物に行くようにしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 自家菜園の世話、野菜の収穫、調理の下準備、食事の準備、後片付けなど各人のできる力を活かして一緒に行っている。食事の時にも「これは〇〇さんにしてもらったものですよ」など感謝の気持ちを表すようにしている。 (外部評価) ホーム周辺の自家菜園で、運営者と利用者も手伝って野菜を育てており、皆で収穫した新鮮な季節の野菜を食材として利用している。利用者と職員が一緒に買い物に行ったり、食後のお盆拭きをするなど、それぞれができることをしてもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事の摂取量や水分量は個人別に記録し、少ないようであれば代替品を使うなどしている。栄養面での過不足やバランスについては、市の管理栄養士さんに年2～3回チェックを受け、アドバイスに沿って改善をしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後歯磨きを行っている。歯のない方についても、うがいを必ずして口腔内に食べ物のかすなど残さないように気をつけている。習慣となっているので抵抗はない。また適宜歯磨きの大切さをお話することもある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価)</p> <p>その人に応じて布パンツ、紙パンツ、オムツと適宜使い分けを行いゴミの減量、経済面にも配慮している。自立の方には裏表が一目でわかるパットを使って、排泄の失敗を少なくし清潔保持に気をつけている。排泄記録を元にトイレ誘導をさりげなく促している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>一人ひとりの排泄パターンを把握して支援している。入居時にオムツを使用していた利用者が、日々のケアを通してトイレでの排泄が可能となったケースもあり、排泄の自立にむけた支援に努めている。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>適正な水分補給、食物繊維、牛乳の摂取、散歩、体操をする。排泄記録をつけ、個人別下剤コントロール表を確認しながら排便サイクルを知ることにより気持ちの良い排便ができるように支援している。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価)</p> <p>当日の体調や本人の希望を優先して、入浴は一人ずつゆっくり楽しんで頂くように安全面に気をつけながら支援している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>週3回、午後3時からを基本としているが、体調やタイミング、本人の希望等に合わせて柔軟に支援している。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価)</p> <p>室内の明かりの調節、冷暖房の管理、寝具の調節を適宜行っている。昼間、夜間を問わずその人のペースで休息、安眠できるように支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 個人ファイルに処方箋を綴じており、どんな薬を飲んでいるのか目的や副作用等を確認できるようにしている。薬の増減や種類の変更なども申し送りや記録で確認できるようにしている。服用したことの確認、薬はその都度手にとり、声に出し名前を確認して誤薬に注意している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) それぞれの持てる力を発揮している。掃除、洗濯物たたみ、畑の草引き、花の水遣り等日常生活での役割を分担しスタッフと共に行っている。新聞や雑誌を読んだり、散歩、買い物にも出かけている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 天気の良い日は努めて外に出るようにしている。庭先での日向ぼっこ、車椅子での散歩、家族支援の外出、地域内外のイベント参加、行楽シーズン中の全員参加の外出やドライブ、他施設でのイベント参加等、また、大勢参加できるような時は運営推進委員さんもお手伝いを率先して頂き助かっている。 (外部評価) 日常的にホーム周辺を全員で散歩したり、時には墓参りに出かけている。年間行事として桜やコスモスの花見、他事業所の納涼祭、そうめん流しなどに出かけ、車いすの利用者も一緒に全員が外出している。家族や運営推進会議のメンバーにも参加してもらい、外出機会を確保するよう努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 基本的には管理者が預っているが、2~3名の方は家族了解の上少額を自分で持って管理されている。時々はお金ありますか?と尋ねるようにしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 面会が多いので手紙や電話は少ないが、遠方の方には担当者と一緒にお手紙を書いている。電話も自分で掛けられる方もある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 明るく清潔で適温、換気、消臭にも気を配りながら気持ちよく過ごしてもらえるようにしている。行事の写真を貼ったり季節の花を活けて生活感、季節感を味わってもらえるように配慮している。	
			(外部評価) 共用の空間はゆったりとして移動もしやすく、明るく清潔である。玄関や居間には季節の花や手作りの作品を飾り、生活感や季節感を取り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ソファーに座る位置、食堂の椅子とそれぞれが思い思いの居場所があり、話をする人、テレビを見る人、居眠りをする人と寛いだ雰囲気ですべて過ごされている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 入居時に使い慣れた品物を持ってきて頂くようにしている。季節の花を飾ったり、仏壇を持参されていたり、家族の写真などを飾るなどそれぞれの好みや生活感が出ている環境づくりに配慮している。	
			(外部評価) それぞれの居室は仏壇、テレビ、家族の写真、観葉植物等使い慣れた物や好みの物を活かして、利用者が居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 居室、廊下、トイレ、浴室、非常階段、玄関前等に手摺を設置して安全面と身体機能の維持に配慮している。居室やトイレの場所がわかりやすい目線に合わせた表示や目印をつけるなど工夫をしている。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3891400016
法人名	原井川建設株式会社
事業所名	グループホームあいの里
所在地	西予市野村町阿下6号588番地
自己評価作成日	平成21年12月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 22 年 1 月 20 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは四方が見渡せる小高い丘にあり、前方に桜の名所「愛宕山」を望み、眼下には野村町のシンボル「乙亥会館」が見えます。畑の中にある地域の生活道路はあいの里自慢の散歩コースであり、四季の移ろいを身近に感じる場所でもあります。農作業中の方に声を掛けたり、掛けられたりと地域の方々に温かく見守られていることを実感します。また広い自家菜園には、運営者自らが季節の野菜を利用者と共に育て、安心安全な野菜を日々の食卓に載せています。昨年末に完成した「交流館」では地域の人達が演芸ボランティアとして再々来て頂きます。そうした時には近所にも一声かけて一緒に楽しみ利用者との交流が自然にでき嬉しく思っています。今年は中学生が「人権の花運動」の一環として、自分たちが育てた花をプレゼント頂きホームの玄関先を飾っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営者と管理者及び職員は、地域密着型サービスの意義や役割を認識したうえで、地域との交流と連携を積極的に図り、利用者が地域で継続して生活できるよう支援している。ホーム内に舞台を備えた交流館を新たに増設し、地域の演芸ボランティアやホーム行事を催し、利用者の楽しみを支援している。また、交流館を会合・研修会場として住民に提供している。自家菜園での収穫物を日々の食卓に取り入れて利用者の食への楽しみと健康維持に努め、また近隣住民におすそ分けもしている。ホーム周辺を日常の散歩コースとして全員で出かけたり、家族や運営推進会議メンバーの協力を得ながら花見や地域行事に全員で参加するなど、外出の機会を確保している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームあいの里

(ユニット名) 2F(ひまわり)

記入者(管理者)

氏名 真田ハル子

評価完了日

平成21年12月16日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 理念を常に意識しながら日々のケアに努めている。今年度は更にサブテーマを掲げホーム内の目に付きやすいところに貼付しお互いに確認共有しながら実践している。</p> <p>(外部評価) 開設時に管理者と職員が話し合い、地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を作成している。さらに基本理念をふまえた具体的サブテーマを全職員で考え、理念の実践につなげている。新年度も新たなサブテーマを作成する予定である。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) ホーム発足当初から地域の自治会に加入し共同作業、常会には運営者が出席している。地域の行事には利用者も参加している。祭りでは牛鬼、御輿の訪問、亥の子には地域の子供たちが亥の子つきに来てくれる。外部からの演芸ボランティア時には近所にも声をかけて一緒に楽しんでもらっている。</p> <p>(外部評価) 自治会に入会しており、運営者が自治会の会合に参加し、回覧板も回ってくる。祭りや亥の子など地域の行事や清掃作業には利用者と職員が参加している。中学生の体験学習や障害児のボランティアを受け入れたり、舞踊ボランティアが来所する際には地域住民を招いて利用者と一緒に楽しんでいる。自家菜園の収穫物を近隣におすそ分けするなど、地域との交流を図っている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 交流館ができたことで、地域のボランティアさんが多く着て頂くようになり、認知症に対する理解は増えてきている。一方ホームとしても、地域の高齢者に対して何か役に立てるようなことを話し合っ取り組みたい。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議を定期的開催し、利用者の状況、サー ビスの状況、課題等について報告し、意見を聴きサー ビスの向上に役立てている。委員さんは真剣に討議し て頂き、行事等にも率先して協力を頂いている。	
			(外部評価) 市担当者、地域代表者、利用者及び家族等をメンバ ーとして、2か月毎に開催している。ホームの行事や現 状の報告、外部評価の公表等を議題とし、活発に出さ れた意見をサービスの向上に活かしている。議事録が 第三者にはわかりにくく、職員の参加もやや少ない。	会議をサービスの向上にさらに活用するためにも、職 員が交代で会議に参加できるように検討を期待したい。 また、議事録は参加者からの意見や提案とホームの対 応がわかりやすい記録とすることも期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価) 市の担当者は何でも親切に教えて頂くので相談しやす い。相談は電話、メール、市役所を訪問して直接指導 を受けている。ホームの大きな行事には参加して頂く 事もある。その他介護保険の更新、認定調査の訪問等 でも協力関係を築いている。	
			(外部評価) 市担当者にはホームでの課題等について相談してアド バイスを受けており、介護保険の認定更新の機会にも 利用者の様子や現状を報告している。また、ホームの 行事にも参加してもらって交流を持つなど、協力関係 を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 玄関の施錠は夜間のみである。居室には始めから鍵は ついてない。身体拘束については職員の意識の統一は できている。例えば「夜間のオムツはずし」等の対応 として簡易な方法から取り組んで身体拘束をしなくて すむようにしている。	
			(外部評価) 職員は、拘束にあたる具体的な行為等についてミーテ ィングや研修を通して理解し、身体拘束をしないケアに 取り組んでいる。玄関の施錠は夜間のみとし、日中は 利用者の行動を抑制しないよう見守りで安全を確保し ている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 身体的虐待は絶対にしてはならないことを徹底しているが、言葉による虐待にも日頃から十分気をつけている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 管理者は研修にも参加しているが、スタッフにはまだその機会がなく、よくわからない。ユニットには権利擁護の支援を受けている方が入居されているので、スタッフにも分かるように勉強会をする。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居契約時に十分時間をとって説明をしているので分かってもらっていると思う。初期のうちには特に面会時など心配なことはないですか？何でも言って下さいと声を再々かけるようにしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 面会時に意見を伺っている。市の介護相談員さんが3ヶ月ごとに訪問していただき、利用者からの意見を聴きそれを文書で報告して頂き職員会等で検討している。 (外部評価) 玄関に意見箱を設置し、重要事項説明書には苦情申立先を明記して、家族の訪問時にも聞き取るようにしている。また、介護計画の見直しの際には家族記入欄を設け、計画と併せて要望や意見を伝えられるよう工夫するなど、出された意見等を運営に反映させている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月職員会で意見を述べ話し合っている。職員は気兼ねなく意見を述べることができ、運営者は職員の意見には十分配慮した対応をされている。 (外部評価) 毎月開催するユニット毎のミーティングには運営者も必ず出席し、職員から現状を聞き取り、意見や要望、提案等を運営に反映させている。運営者の柔軟な姿勢もあり、職員は思いや意見等を積極的に伝え、話し合っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 勤務状況は逐一報告を行い把握して頂いている。給与面についてもいち早く「介護職員処遇改善給付金」の申請を行い職員の処遇改善に取り組んでもらっている。その他研修会参加費の負担、常勤、非常勤の区別なく研修は勤務扱いである。希望休も十分にとれるように柔軟な勤務体制である。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 常勤、非常勤を問わず均等に学習する機会を設けて、外部研修にはできるだけ多く参加している。法人内の研修会も定期的を開催して職員のスキルアップにつなげている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 外部研修等で情報交換やグループホームの相互研修にも参加しお互いのホームを行き来して、ホームの質の向上に努めている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 信頼関係を早期に築くことが一番大切と思われるので、入居当初は特に頻繁に声をかけながら話を良く聴き、安心して生活ができるように気をつけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 利用者と同様に考えており、面会時などゆっくり話を聴くようにしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 何が必要か、何を求めているのかを本人家族と話し合いながら対応している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 職員は人生の先輩として尊敬し、また生活のパートナーとしてお互いに助けあいながらより良い関係を築いている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 入居契約時にはホームの理念を十分に説明し、遠慮なく意見を述べて頂く事が、不可欠であることを理解して頂いている。面会時には話を聴いたり、担当が家族に手紙を書くなど情報を共有しながら、時には家族にしかできないことへの協力も可能な範囲でお願いしている。(盆正月、冠婚葬祭等)	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 入居前に掛かっていた医療機関や主治医との関係を継続して利用者、家族の安心につなげている。地域の行事にもできるだけ参加し馴染みの人や馴染みの場所に出かける楽しみを味わってもらっている。 (外部評価) ホームのある地域出身の利用者が多く、馴染みの方の訪問はよくある。近隣の理髪店を利用した際には帰りに送ってくれる等、馴染みの関係が築かれている。散歩コースの途中で墓参りをしたり、遠方の墓参りにも職員が同行するなど、馴染みの人や場所との関係継続を支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 理念をわかりやすく説明し、お互いに助け合い労わりあっている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退居時には、家族やケアマネに十分な情報を提供し在宅生活がスムーズに送れるように支援している。退居後も病院や町で本人や家族を見かけたら声をかけている。葬儀等にも参列する場合もある。（退居後短い期間の場合）	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) マイペースを尊重しながら、本人の意向を確認している。ケアプランの更新時には家族、本人の意向を再確認をしているが、表出できない方については担当が主となり関係職員と話し合い検討している。	
			(外部評価) 日々のケアを通して、担当職員を中心に表情や言動から一人ひとりの思いや意向を汲み取ったり、家族に相談して本人本位に検討している。気づきや情報は、申し送りノートにより全職員が共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居前の訪問、担当ケアマネ、関係機関からの情報、家族、友人知人の面会等での話しの中からも情報の把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 個人記録や申し送りで一人ひとりの状態を把握し、個々のできる力、できそうな力を活かして生活できるように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 担当者が問題提起を行い、チームで話し合い個別性のある介護計画を作成し、より良いケアを行えるよう努めている。	
			(外部評価) センター方式を取り入れたアセスメントを基に、課題とケアのあり方について本人・家族、職員で話し合っ て計画を立て、モニタリングを行い、変化時と定期の 3か月毎に見直している。家族への報告時には意見欄 を設けて要望や意見を書いてもらうようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個人記録を細かに残すことによりプラン見直しに活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 本人家族の要望には十分配慮した支援を行っている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域資源の協力は随時受けている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価)</p> <p>各人が入居前からのかかりつけ医を利用することにより、心身状態の把握が継続してでき、本人家族の安心につながっている。通院介助はすべて管理者が行っており、主治医、看護師との連携が十分に図れている。受診状況は個人記録と申し送りで職員にわかるようにしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>利用者及び家族の希望を大切に、入居前からのかかりつけ医の受診を管理者同行で支援し、協力医療機関に結果を報告している。また、皮膚科、眼科等の専門医への受診については協力医療機関と連携しながら、適切な医療を受けられるよう支援している。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	<p>(自己評価)</p> <p>ホームの看護師は看護師ならではの視点から、気づきや情報を介護職に伝えお互いに情報を共有しながら、利用者の健康管理に努めている。訪問看護師や病院の看護師共、気軽に相談できる関係である。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価)</p> <p>利用者が入院した場合は、毎日誰かは訪問し状況把握に努めている。病棟看護師、主治医に病状、退院の見通し等を尋ね早期退院に向けて相談を行っている。地域相談室にも情報をお願いすることができる。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>ホームとしての見取りの指針を作成し、家族会の折りに説明を行った。家族や本人との個別の相談は未だ行っていない。地域的なこともあり、今までは可能な限りホームで過ごし最後は病院でと言うケースばかりであった。今後はホームでの看取りも踏まえて職員研修を実施する必要がある。</p> <p>(外部評価)</p> <p>重度化や終末期を迎えた場合、利用者及び家族は医療機関への移行を希望する傾向にあり、現在まで看取りの経験はないが、今後に備えて看取り指針を作成している。</p>	<p>重度化した場合の利用者及び家族の思いとホームの対応が一致するよう、入居時の早い段階から話し合いを持つとともに状況の変化に応じて話し合いを継続して、方針の統一を図っていくことが望まれる。また、支援体制の充実に向けて職員の看取りへの学びを深めることも期待したい。</p>

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 応急手当の訓練は受けたが、その場で誰でもがあわてずに適切な処置が行えるかは疑問である。定期的な訓練や研修をしていく必要がある。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年1回は消防署立会いの下、通報、消火、避難訓練を利用者職員全員参加で実施している。その他ホーム単独でも年4～5回は夜間を想定した避難訓練を実施している。来年度は実際に夜間に実施して緊急連絡網がどのように機動するか試してみたい。近所の協力も仰ぎたい。 (外部評価) 緊急連絡網・避難マニュアルを作成している。消防署の協力を得ての訓練を年2回実施し、訓練記録を作成している。また、年に数回は利用者と共に夜間を想定した自主訓練を行っている。今後は近隣住民の協力を得ての訓練実施を計画しているが、現在のところ実現はしていない。	運営推進会議等を通じて地域住民への協力を求めるとともに、地域の自主防災組織についても確認することが望まれる。ホーム周辺は広い畑のため一時避難場所にはなるが、公的避難場所も確認し、さらに備蓄品を確保するなど、災害に対し更に備えを充実するよう期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 個人の尊厳を傷つけない対応を心がけている。言葉遣いや入浴、排泄介助においては尊厳と安全性に配慮している。居室の入り口には暖簾をつけ目隠しをしている。ネームプレートやその人に応じた目印等もつけて間違いをなくしている。 (外部評価) 一人ひとりを人生の先輩として尊敬し、誇りやプライバシーを損ねないように、声かけや対応には十分気をつけている。馴れ合いから失礼になることがないように、職員同士で注意し合っている。毎月1回の勉強会で、人格の尊重とプライバシーの確保について理解を深め、徹底するようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 本人ができるだけ自己決定や思いを伝えることができるように、待つゆとりを持って対応している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 個人のペースを大切にして、まずは本人の希望を聴き本人の意向を優先している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) その日の洋服選びから理美容についても適宜希望を聴きながら支援している。身の回り品の購入については、なるべく本人を伴って買い物に行くようにしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 自家菜園の世話、野菜の収穫、調理の下準備、食事の準備、後片付けと各人のできる力を活かして一緒に行っている。その人に合わせた調理方法を行い、美味しく食べて頂く工夫も随時行っている。 (外部評価) ホーム周辺の自家菜園で、運営者と利用者も手伝って野菜を育てており、皆で収穫した新鮮な季節の野菜を食材として利用している。利用者と職員が一緒に買い物に行ったり、食後のお盆拭きをするなど、それぞれができることをしてもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事の摂取量や水分は個人記録に細かに記録し、少ないようであれば代替品を使うなどしている。栄養面での過不足やバランスについては市の管理栄養士さんに年2~3回チェックを受けアドバイスをもらい改善をしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後歯磨きを行っている。歯のない方もうがいをして口の中に食べ物の残渣を残さないようにしている。食後の口腔ケアは習慣となっているので問題はない。自分でできない人については職員が行っている。義歯消毒も定期的に行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価)</p> <p>その人に応じて、また時間帯によって布パンツ、紙パンツ、オムツと適宜使い分けをして、気持ちよく過せる工夫とゴミの減量に努めている。排泄記録を元に尿意のない方については時間を見計らってトイレ誘導を行い、排泄の失敗を最小限に抑えている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>一人ひとりの排泄パターンを把握して支援している。入居時にオムツを使用していた利用者が、日々のケアを通してトイレでの排泄が可能となったケースもあり、排泄の自立にむけた支援に努めている。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>適正な水分摂取、食物繊維、牛乳の摂取、散歩、体操などの働きかけ、排泄記録をつけることにより、排便のサイクルを知ることができそれに合わせた対応ができる。(整腸剤や下剤のコントロール)</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価)</p> <p>当日の体調や本人の希望を優先して、一人ずつゆっくり楽しんで頂くように安全面に気をつけながら支援している。皮膚の観察を行い、入浴剤、保湿ローション等適宜使用している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>週3回、午後3時からを基本としているが、体調やタイミング、本人の希望等に合わせて柔軟に支援している。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価)</p> <p>室内の明かりの調節、冷暖房の調節、寝具の調節、湯たんぽの使用とその人が気持ちよく安眠できるように支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 個人ファイルに処方箋を綴じており、どんな薬か、副作用は何かがわかるようにしている。薬の変更等は個人記録や申し送り等でわかるようにしている。服用前後の確認を適切に行い誤薬には特に気をつけている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) それぞれが自分にできることを役割分担して行っている。日々の生活の中で楽しみや自信につながるような支援をしている。意外な場面で力を発揮されると、生活歴が想像できる。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 天気の良い日は努めて戸外へ出るようにしている。散歩に行かない人はベランダで日向ぼっこをするなども。散歩を兼ねて近くの店へ買い物にも行ったりその時々に合わせて気分転換を図る工夫を行っている。家族が適宜外出支援をしてくださる事もある。 (外部評価) 日常的にホーム周辺を全員で散歩したり、時には墓参りに出かけている。年間行事として桜やコスモスの花見、他事業所の納涼祭、そうめん流しなどに出かけ、車いすの利用者も一緒に全員が外出している。家族や運営推進会議のメンバーにも参加してもらい、外出機会を確保するよう努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 基本的には管理者が預っているが、中には少額を自分で管理されている方もある。紛失しないように適宜「お金はありますか?」と声をかけている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) ほとんど方は家族が市内のため、最低月1回は面会に来られるので手紙や電話はない。中には遠くに住んでいる娘さんから適宜電話や手紙が届く方もあり、担当と一緒に返事を書くこともある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 明るく清潔で適温、換気、消臭にも気を配りながら気持ちよく過ごしてもらえるようにしている。行事の写真を貼ったり。花を活け、鈴虫や金魚やめだかを飼育して、季節感、生活感を取り入れている。</p> <p>(外部評価) 共用の空間はゆったりとして移動もしやすく、明るく清潔である。玄関や居間には季節の花や手作りの作品を飾り、生活感や季節感を取り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 共用空間で思い思いの居場所ができており、ゆったりとくつろいで過せて、昼間居室に閉じこもるようなことはない。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 自分の好みや使い勝手の良いように工夫したり、部屋を飾ったりされている。仏壇を持ち込んでお茶湯をしたり、亡き夫に朝夕語りかけている方もある。</p> <p>(外部評価) それぞれの居室は仏壇、テレビ、家族の写真、観葉植物等使い慣れた物や好みの物を活かして、利用者が居心地よく過ごせるよう工夫している。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) ホーム内はバリアフリーで居室、廊下、浴室、非常階段、玄関前等には手摺を設置して安全面と身体機能の維持に配慮している。居室やトイレの場所がわかりやすいように、目線に合わせた目印や表示をしている。</p>	